

3月は卒業旅行や、就職、転勤等で遠出する事が増えてきます。そのようなときに酔い止めに頼る方もいることでしょう。また、花粉症の時期でもあり、花粉症薬（眠くなりにくい鼻炎薬）の出番でもあります。日本アレルギー協会が行った疫学調査によると、東海地方では4人に1人以上が花粉症だと言われております。そこで、今回は酔い止め薬と、花粉症薬との関係についてです。実は酔い止めに含まれる成分と、花粉症薬の成分は同じ系統の抗ヒスタミン薬と言われるものです。抗ヒスタミン薬は昔から鼻炎薬として広く用いられている成分ですが、乗り物酔いによるめまい等を抑える効果もあります。では、酔い止め薬と花粉症薬とでどのような違いがあるのでしょうか？



酔い止め薬に用いられるのは第一世代抗ヒスタミン薬に分類されます。これは花粉症を引き起こす原因となるヒスタミンをブロックする薬ですが、中枢神経抑制作用もあり、乗り物酔いを緩和することができます。眠気や口の渇きが出る方もいますが効き目のキレが良いのが特徴です。花粉症薬に用いられるのは第二世代抗ヒスタミン薬に分類されます。第一世代と同様、ヒスタミンをブロックする作用を持ち、さらにヒスタミンの放出自体を防ぐ作用もあります。第二世代は眠気や口の渇きといった副作用が

比較的に少なく、効果的に花粉症を鎮めてくれます。花粉症薬を普段使いしている方が、酔い止め薬を飲みたい場合には、花粉症薬を一時中止して酔い止め薬に切り替えてもらう場合があります。酔い止め薬の第一世代抗ヒスタミン薬が、花粉症の症状も和らげてくれることでしょう。ただし、予期せぬ眠気がでることや飲み合わせの悪い薬もあるため、医師の治療を受けている方や、不安な方は医師又は薬剤師にご相談ください。